

教師海外研修とは？

教師海外研修の目的

JICAは、諸外国との関係や異文化理解の学習について、国際協力を通じて培った経験や人材、ネットワークを活用し、積極的に支援を行っています。この教師海外研修は国際理解教育／開発教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を次代を担う児童・生徒の教育に役立てていただくことを目的として実施します。帰国後は、海外研修で得た経験を授業等を通して生徒に伝え、生徒の国際理解を推進していただくことを目的としています。

応募条件

四国4県の国公立・私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校、特別支援学校教員及び教育委員会の指導主事等で、応募締切時点で年齢が原則50歳以下であり、所属長または教頭の推薦が得られる方(JICAから海外に派遣された経験のある方は除きます)

派遣期間

毎年7月下旬～8月上旬の約10日間

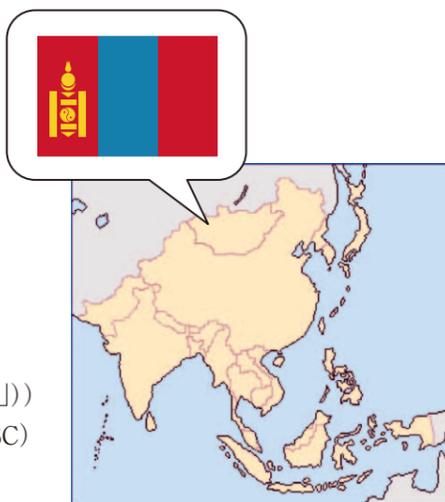
募集時期

毎年4月

平成25年度の研修国「モンゴル」について

- (1) 正式名称 (和文)モンゴル国
(英文)Mongolia
- (2) 政 体 共和制(大統領制と議院内閣制の併用)
- (3) 人 口 286万8,000人
(2012年、モンゴル国家統計委員会(以下「NSC」))
- (4) 首 都 ウランバートル(人口131万8,100人)(2012年、NSC)
- (5) 面 積 156万4,100 km²(日本の約4倍)
- (6) 民 族 モンゴル人(全体の95%)及びカザフ人等
- (7) 言 語 モンゴル語(国家公用語)、カザフ語
- (8) 宗 教 チベット仏教等(社会主義時代は衰退していたが民主化(1990年)以降に復活。
1992年2月の新憲法は信教の自由を保障。)
- (9) 一人当たりGDP 3,673米ドル(2012年、世界銀行)
- (10) 主要産業 鉱業、牧畜業、流通業、軽工業

【参考】「外務省ホームページ ―各国・地域情勢―」外務省



教師海外研修のながれ～年間スケジュール～

1. 派遣前研修 ◆平成25年6月8日(土)～6月9日(日) @香川県

【1日目】

JICA事業説明やモンゴルに派遣されていた協力隊OBからモンゴル事情や体験談を聞き、JICA事業及び研修の流れ・派遣国について理解を深めました。また、国際理解教育基礎講座では、授業で使える参加型手法や教材を実際に体験しながら、学びました。

【2日目】

昨年度参加教員2名による研修報告及び参加教員間で事前の打合せを行いました。



2. 海外研修 ◆平成25年7月28日(日)～8月7日(水)(11日間)

※日程、詳細は次ページ以降をご参照ください。

3. 第1回帰国後研修 ◆平成25年8月24日(土)～8月25日(日) @徳島県

【1日目】

2学期の実践授業に向け授業計画を予め作成し、参加教員間で発表を行い、意見交換を行ないました。

【2日目】

国際理解教育セミナーに参加し、モンゴル研修の報告を行いました。その後、開発教育協会(DEAR)から佐藤友紀氏を講師として招き、「海外経験を「帰って伝える」ための教材づくり、伝え方のコツ～エチオピア・サモアの事例から～」と題したワークショップを通して、体験・参加型手法について学びました。



4. 各校での授業実践 ◆平成25年9月～平成25年12月

帰国後研修で意見交換をした授業計画を基に、各学校で授業を実践しました。

5. 第2回帰国後研修(実践授業報告会) ◆平成26年2月22日(土)・23日(日) @香川県

【1日目】

2学期以降に各々が実践した授業について発表を行い、その後、実践授業を通して、直面した課題や悩みを共有しました。

【2日目】

国際理解教育セミナーにおいて、海外研修の様子や実践授業について、一般参加者に向けて発表しました。また、食文化を考える教材体験や参加者との意見交換を通じ、今後の教育活動において使える「ネタ」「ヒント」を得る機会となりました。

海外研修 日程表

◆ 1. 期間：平成25年7月28日(日)～8月7日(水)【10日間】

◆ 2. 日程

月 日	曜日	訪問先及び研修内容	目 的
7/28	日	大韓航空724便 関西国際空港→仁川 大韓航空867便 仁川→ウランバートル	日本→モンゴル移動
7/29	月	JICAモンゴル事務所訪問 ・モンゴル国事情紹介 ・JICA事業紹介 ・安全対策・健康管理ブリーフィング	モンゴル国事情についての概要説明とJICA事業の紹介 滞在中の安全確認など理解する。
		日本大使館表敬	2国間の外交の歴史と昨今の両国関係について理解を深める。
7/30	火	Save the Children Japan 施設訪問 ・子供たちとの交流 ・日本の遊び紹介 ・阿波踊り披露	様々な要因で家に帰れなくなった子どもたちの日常生活に触れることにより、モンゴルの抱える問題について考える。また、日本文化の紹介により学校に通えてない子どもたちにも世界というものを理解してもらおう。
		私立新モンゴル高校訪問 ・現地日本語教育現場視察	学校設立の目的と生徒の学習状況などについてサマースクール(補講形式)を視察。
7/31	水	UNハビタット(ゲル地区)事業視察	国連ハビタットの事業内容について現場視察を実施。ゲル地区の抱える水問題などの理解を深める。
		シニア海外ボランティアとの面談・活動内容紹介	シニアボランティアの実際の活動内容・問題点などに触れ、現場活動についてより具体的な知識につなげる。
8/1	木	JICA技術協力プロジェクト現場視察 ・ウランバートル市廃棄物管理能力強化プロジェクト	環境分野での日本の支援現場を視察し、国際協力への理解を深める。
		障害者親の会	障害児を持つ親との交流を通し、モンゴルにおける障害者を取り巻く状況について理解する。
		淡水センター	モンゴルの自然環境および環境保全への取組みについて理解する。
8/2	金	外傷病院	青年海外協力隊の活動やモンゴルの医療事情について理解を深める。
		ガンダン寺視察	ウランバートル随一の寺院視察
		民族芸能ショー	モンゴルの伝統文化を体感する。
8/3	土	遊牧民ゲルホームステイ	遊牧民生活を体験することにより、家族の絆・遊牧民文化などを体感する
8/4	日	遊牧民ゲルホームステイ	

8/5	月	テレルジ子供キャンプ訪問 ・滞在中の生活について聞き取り ・日本の遊び紹介 ・阿波踊り披露	小学1年生～大学生まで幅広い年齢層が集まるサマーキャンプの視察と日本の遊びを紹介することによる国際交流のきっかけづくりを行う。
		テレルジ国立公園亀石視察	国立公園視察
8/6	火	振り返りMT@JICAモンゴル事務所	授業実践に向けての教材づくりの方法と各県JICA事務所活用事例紹介など。
		JICAモンゴル事務所研修報告会	モンゴル事務所職員への研修報告会
		モンゴル国立博物館	モンゴルの人々の暮らし、広大な土地での各民族の特徴などについて学習する。
		教材・資料収集	必要教材・資料の収集
8/7	水	大韓航空868 便 ウランバートル→仁川	モンゴル→日本 移動
		大韓航空723 便 仁川→関西国際空港	

